

第2学年1組 外国語（英語）科学習指導案

活動場所 英語科教室, 国際メディア, HOME BASE 1年2組
指導者 森田理恵子 ALT Edward Conway

英語科における テーマ	英語を話したり書いたりして自分が伝えたい内容について適切に表現するコミュニケーション力を育成する指導の工夫
----------------	---

1 単元名 Presentation 2 町紹介 (NEW HORIZEN English course 2)

2 単元について

本単元では、Unit6で学習した文構造 **there is** の復習と応用を兼ねて、「町紹介」が取り上げられている。**There is...**や1年生で学習した同様の意味の **We have...**は、町の特色を説明するための最初の文として、聞き手の興味・関心を引きつけるという点においてふさわしいと考える。さらに、2年生の2学期には、**must**, **have to**, **should** などの助動詞、**If you want to eat sea food,...**や **When you come to Oarai,...**のような相手の意向を踏まえて何らかの情報を伝える表現、**...because it is very beautiful.**のような相手に自分のアイデアや理由を伝える表現、**You can enjoy swimming in the beautiful sea.**など、具体的にできることについて述べる表現など、町の魅力を伝えるために有用な表現を多く学習している。それらを駆使して、自然、建物、祭り、食べ物など様々な切り口から自分たちの町を紹介できるようにしたい。

本学級の生徒(男子*名, 女子*名, 計*名)は、多くが英語学習に意欲的で、元気にあいさつをしたり、単語の発音練習、本文のリーディングを行ったりすることができる。特に、英語を話したり、書いたりすることを楽しんでいる様子が見られる。これまで、入国審査の場面でのスキット発表、将来の夢についての発表などを行ってきた。書くことにおいても、3文英作文などを継続的に行ってきたので、タイトルに応じて20語程度の作文を書けるようになってきた。しかし、あらかじめシナリオがあるスキットや原稿を用意してのスピーチ、タイトルに応じた英作文などある程度できるようになってきたが、原稿やシナリオを用意せずに即興で話したり、自分から質問をして会話を続けたりすることはまだまだ練習を積み重ねる必要があると言える。この実態から、英語を使って即興的にやり取りができるようになることを目標に、基礎・基本的な内容を習得するとともに、英語を用いてコミュニケーションを図ることのできる活動を工夫していきたい。

昨年度より本校の研究は、新しい研究主題「学びがつながる 私がひろがる」のもと、次なるステージへと移った。英語科では目指す生徒像を、「自分の伝えたい内容について、相手がより分かりやすい表現や内容を吟味しながら、英語で表現しようとする生徒」とし、課題設定の工夫、そして様々なコミュニケーション活動において、友達といろいろな表現について比較、検討、吟味を重ね、よりよい表現を創り上げていく過程を大切にして授業を展開してきた。その結果、自分が伝えたい内容を表現するとともに、英語を通して友達と関わろうとする態度が身に付き、日常生活や自分に関連した内容について話したり書いたりして相手に伝えることができるようになってきた。

一方、中学校学習指導要領解説外国語編(平成29年7月)では、外国語教育において育成すべき力について、その目標を実現するために、指標形式の目標を設定している。その中で、これまで「4技能」として称されることが多かった、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」について、「話すこと」を「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」の2つとし、合わせて5つの領域として示すこととしている。たしかに、これまで話す活動として多く行ってきたスピーチやプレゼンテーションなどでは話し手が一方的に話し、そのあと聞き手が質問をするという形をとってきた。スキットなどでは、あらかじめ用意したシナリオを覚えて話すことからなかなか抜け出せず、見かけのやり取りといった感が否めなかった。このように多くの活動を思い返してみると、やり取りという概念が欠けていたように感じた。

そこで、本単元では、外国からの観光客におすすめの観光コースを提案するという形をとり、聞き手の好みや観光目的について質問を投げかけながら提案していくことで、やり取りが生まれるようにしたいと考えた。生徒たちはこの単元の学習に先立って、社会科の学習において、外国人におすすめの観光コースを作成する活動を行っており、外国人向けに英語版を作るというさらなる目的をもつことで、教科の学習に関連性をもたせたいと考える。また、この夏、大洗町に国際交流を担当するイギリス人の女性が採用され、大洗町の魅力を外国人に発信する仕事を担っていると聞いた。彼女が近い将来ホームページなどを立ち上げる際に、中学生が観光コースを提案している様子やその内容を何らかの形で利用してもらえないかということ役場の担当者に伝えてある。このことを生徒たちにも伝え、生徒たちがもつ「英語の授業の中だけの英語」という意識から、「英語を使って何をしたいのか、何ができるのか、その目的に向かって考えながら学ぶ」という意識へと変革していきたい。大洗町の魅力を外国人にアピールするために英語を学ぶという意識をもちながらこの単元の学習ができるようにしたい。

3 単元の目標

- 友達と協力して練習し、聞き手とインタラクションを図りながら観光コースを提案しようとしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 町紹介のモデル文を読んで、その内容を理解することができる。
(外国語理解の能力)
- 既習の表現を用いて、おすすめの観光コースについての英文を書くことができ、またそれを口頭で話すことができる。
(外国語表現の能力)

4 単元の指導計画と評価計画 (6時間扱い)

時	学習課題	評価規準・(評価方法)
1	町紹介のモデル文を読んでみよう。	[理] 町紹介のモデル文を読んでその内容を理解することができる。 (ワークシート, 観察)
2 ・ 3	おすすめの観光コースを英語にしよう。	[表] 既習の表現を用いて、観光コースについての英文を書くことができる。 (ワークシート)
4 ・ 5	発表の準備をし、練習しよう。	[コ] 聞き手に分かりやすい発表になるように声の大きさやスピードに気を付け、聞き手とインタラクションを図れるように質問を交えながら友達と協力しながら練習している。 (観察)
6 (本時)	大洗町にやってくる外国人におすすめの観光コースを提案しよう。	[表] おすすめの観光コースについて英語で話すことができる。 [コ] 聞き手とインタラクションを図りながら提案しようとしている。 (観察, 自己評価カード)

5 本時の学習

- (1) 目標
おすすめの観光コースを聞き手に質問しながら提案することができる。
- (2) 準備・資料
・発表資料 ・ホワイトボード ・マグネット ・自己評価カード
- (3) 板書

Wednesday, November 23rd

大洗町にやってくる外国人におすすめの観光コースを提案しよう

Today's Class 1 warm up 2 prepare 3 activity 4 振り返り	〈発表者〉 ※相手に聞こえる声で ※話すスピード ※視線〈聞き手の方を見て〉 ※聞き手の反応を確かめながら	〈聞き手〉 ※メモしながら ※提案者の質問に答える ※あいづちを入れる ※できれば質問する
--	---	---

Have fun!

(4) 学習の場

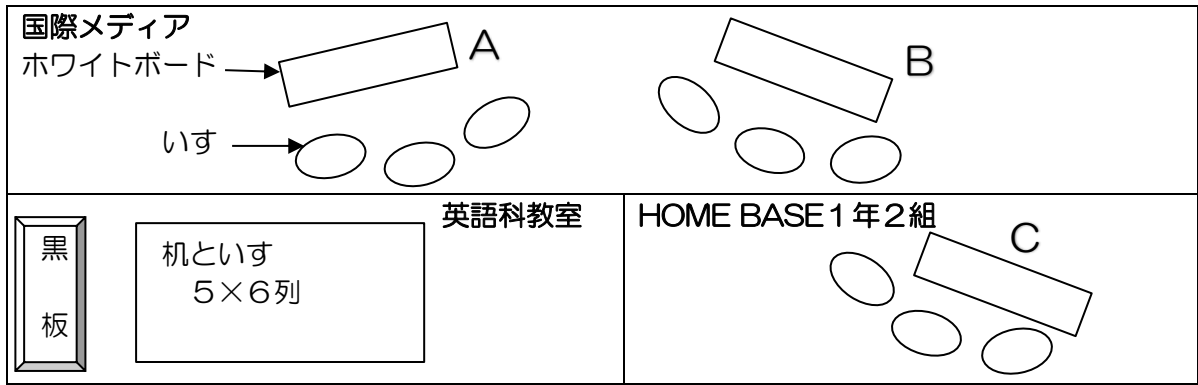
ア 全体で学習〈学習活動1, 2 (1)〉 **英語科教室**

イ グループで活動, 発表〈学習活動2 (2), 3)〉
英語科教室, 国際メディア, HOME BASE 1年2組

		SP	L1	L2	L3			SP	L1	L2	L3
A	前半	①	④	⑥	⑤	後半	④	①	③	②	
B	前半	②	⑤	④	⑥	後半	⑤	②	①	③	
C	前半	③	⑥	⑤	④	後半	⑥	③	②	①	

A, B, C…発表する場所
 ①～⑥…グループ
SP…Speakers,
L…Listeners
 L1…前半, 後半の1回目

ウ 全体で学習〈学習活動4)〉 **英語科教室**



(5) 展開

学習活動（予想される生徒の姿）・内容	指導上の留意点と評価
<p>1 Warm up ・あいさつをする。</p> <p>2 本時の課題を確認し、提案の準備をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 大洗町にやってくる外国人に おすすめの観光コースを提案しよう </div> <p>(1) 本時の課題を確認する。 ・活動の流れと評価の観点を確認する。</p> <p>(2) 各グループで提案の準備をする。</p> <p>3 6グループを2つに分けて、前半に3グループが提案し、残りの3グループが順番に提案を聞くために回っていく。(1回5分程度) 〈考えられる提案例〉 ※波線の部分が聞き手とのやり取りを意識した質問</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>A: Hello, I'm Hirano. Welcome to Oarai. <u>What do you want to do in Oarai?</u> <u>If you come to Oarai in summer, you should come to Sun Beach.</u> You can enjoy swimming there. Sun Beach is a universal beach.</p> <p>B: <u>Are you hungry after swimming?</u> There are many sea food restaurants in Oarai. <u>Do you like to eat sea food?</u> We recommend "Kaachan no mise". You can enjoy fresh sea food there. It's not expensive.</p> <p>C: <u>Do you like to see fish?</u> You should come to Aqua World. This is a very famous aquarium in Japan. <u>What is it famous for?.</u></p> <p>D: <u>Do you want to touch some fish?</u> You can touch some star fish and small sharks. It's very fun.....</p> </div> <p>4 本時の振り返りをする。 ・自己評価シートに記入する。</p> </p>	<p>指導上の留意点と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつし英語学習の雰囲気をつくる。 ・聞き手を意識しながら話すように助言する。 ※声の大きさ ※話すスピード ※視線 ※聞き手の反応を確かめながら ・聞くときは、どんな場所が提案され、何がそこできるときの、何がおすすめなのかなど、ポイントをつかんで聞くようにする。 ※メモをとる ※提案者の質問に答える ※あいづち ※できれば質問する ・メモするためのワークシートを用意する。質問の仕方やあいづちなども載せておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>【外国語表現の能力】 おすすめの観光コースについて英語で話すことができる。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 聞き手とインタラクションを図りながら提案しようとしている。(観察, 自己評価カード)</p> </div> <p>【努力を要する生徒への働きかけ】 練習の段階で、自信をもってできるように一緒に練習する。</p> <p>【十分満足できる状況例】 一方的な話し方ではなく、聞き手の反応を確かめながら話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案者は考えられる提案例にあるような質問を聞き手にすることでやり取りを意識しながら発表できるようにする。 ・提案の助けとなる写真や絵を効果的に提示できるようにする。ジェスチャーなども使えると良いことをアドバイスする。 ・聞き手は、提案者の質問に答えたり、あいづちを打ったりしながら提案を聞くようにする。できれば、質問もするようにする。 ・グループを回り、活動が活発になるように支援する。特に、聞き手の生徒に、あいづちを促したり、質問の仕方についてアドバイスしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・話すスピード、視線、インタラクションを図ることができたかなどについて、自分がよくできた点、改善すべき点を振り返って書くようにする。